

# 「わが国で分離されるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分子疫学解析」 (CRE 感染症発症例の臨床経過解析)

## 【研究の背景】

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症とは、カルバペネム系抗生物質が効かなくなった腸内細菌科細菌の総称であり、海外において社会的な問題となっております。本邦では稀ではありますが、CREによるアウトブレイクが医療施設で発生しており、CRE感染症の感染制御策の立案がされているところです。しかし、日本では稀な感染症であり、国内における疫学データも無い状況であります。

本研究では、国内の医療施設で検出されたCREの菌株を収集し、CREが産生するカルバペネム系抗生物質を分解する酵素であるカルバペネマーゼ産生株の割合を調べるとともに、CRE感染症発症患者の臨床経過に関する情報を収集して、CREの臨床的なリスクを明らかにすることを目的としています。また、収集した株を用いてCREの検出に適した検査方法を開発することも目的とした研究です。

## 【調査する内容】

① 当院において分離されたCREを、個人が特定できないようにした上で国立感染症研究所細菌第二部に送付します。薬剤耐性遺伝子(カルバペネム耐性遺伝子)の検出および抗生物質に対する薬剤感受性試験を行います。コントロールして、同時期に分離されたカルバペネム感性の腸内細菌科細菌の菌株の同様に調査します。

② 研究期間中、CREによる感染症を発症した入院患者の臨床経過を、個人が特定できないようにした上で、国立感染症研究所細菌第二部に送付します。上記①の結果をもとに統計学的解析を行い、カルバペネマーゼ産生株と非産生株とで臨床経過や予後にどのような違いがあるかを解析します。

## 【使用する情報】

菌株が分離された患者さんの基本情報：年齢・性別・検体・分離日・判定薬剤・海外からの転院の有無および、CREによる感染を発症した症例の臨床経過・抗菌薬使用状況の内容を使用します。

## 【対象となる患者さんの利益・不利益】

この研究は、患者さんから検出されたCREおよび上記のデータをカルテなどから調べるだけですので、対象となる患者さんに利益及び不利益はありません。また、個人情報には調査しないので個人情報は漏洩する危険性はありません。

【調査期間】 平成27年9月～平成28年2月(6ヶ月間)

## 【研究成果の発表】

調査した患者さんのデータは集団として分析し、学会や論文で発表する予定です。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

【研究代表者】 国立病院機構宮崎病院 院長 江崎 公明 (えさき きみあき)

## 【問い合わせ先】

国立病院機構 宮崎病院 研究検査科

高瀬 哲 (たかせ さとし)

電話： 0983-27-1036 (内線722)